

新刊紹介

新羅甸文法 田中秀央著

(Nova Grammatica Latina)

西洋の學藝の研究に古典語の知識の必要缺くべからざるものであることは言ふまでもない。洋人の後から追隨する紹介的研究に止まらず、これを批判的に研究し、獨創的に研究しようとするれば、一層羅甸、希臘語の知識が必要となつて来る。古典語を知らなければむしろ不可能と言つてもよいかも知れない。古典語の中では羅甸語が學藝上最も勢力を有してゐるから、羅甸語の攻究が特に緊要である。現代の西洋人の著述を讀んでも羅甸語を全く引用してない書籍は珍しい位である。されば近頃は我が國にも羅甸語を攻究する人が多くなり、羅甸語の夏期講習さへ連年行はれるやうになつた。

本書著者は十四年前に羅甸文法を著して、羅甸語攻究者に非常な便益を與へられたのであつた。私共も學生當時羅甸語を學習して居つた時、教科書としては、英文の

羅甸語の書を使つたが、参考書として、非常に著者の舊著から恩恵を受けたことは今尙感謝の念にたへない。

爾來著者は逐次數度の改訂をこの書に施して、絶えず新研究を加へ、のみならず更に最近には、邦文では絶無であつた希臘語の文法書を學界に提供して、大いに貢獻せられたのであつたが、こゝに又舊羅甸文法をすつかり改めて新しい装を以て「新羅甸文法」を公にされることとなつたのは、研究家の大なる喜であること信ずる。

今「新羅甸文法」を通讀して得た二三の感想を記して紹介の辭に更へることとする。第一、本書は西曆紀元前後ローマの極盛時代の羅甸語に本づいて、純ローマ人的な發音を説くと共に、卷初より卷末に至るまで、その單語にも一々叮嚀に母音の長短を符號によつて明らかにし(但し練習文を除く)であるのは頗る親切なやり方である。第二、文法用語は凡て羅甸語で示すと共に、解しやすからしめる爲に、日本語、英語で併せ示してあり、且發音の類は英獨佛語と比較して之を明かにし、動詞の活用には日本譯の外に英譯をも加へてあつて、讀者をして

十分納得せしめるやうになつてゐる。

第三に本書の最も工夫をこらしてある點は、本書の内容の排列が極めて秩序的であつて、歐洲近代語に相當習熟してゐるものなら、全く羅旬語を知らない者も根氣よく讀んで行くならば、十分獨學しうる程に漸進的に出來てゐるこゝである。従つて普通の文法書に見るやうに先づ名詞形容詞の語尾變化を各變化形の順に説いてから、代名詞に移り、動詞に進むといふやうな順序を本書には採用してゐない。本書は名詞の性、數、人稱、格を概説してから、直ちに動詞の活用を相、時、法、數、人稱について概説し、併せて規則動詞の現在直説法能相を四種の活用形にわたつて説明し、次に羅旬文に於ける單語の並べ方を説き、更にその次に名詞形容詞の第一種、第二種の轉尾を細説してある。それ故、名詞轉尾の練習題で單語の語尾變化の無趣味な問題を羅列するやうなへまに陥らず早くから短文の練習題を提出し、かつ短文を集めて記述された短い話を提出して、讀者をして飽かしめないやうに考察してある。それから進んで動詞の目的の活用前置詞、第三種の名詞轉尾といふやうに組織してある。

つまり讀者の實力養成を主位として、常に單純から複雑へミ組織したものとミなつてゐる。

尤もこの方法は讀解の練習には好都合であるけれども活用や轉尾について統一的組織的な知識を讀者に與へ難い缺點がある。文法書ではこの後の事が重要な生命も言ひるのであるから、その爲に、本書には附録に於て轉尾及び活用の詳細な規則表を收めてある。これによつて本書の讀者は一步々々進歩する讀解力をこの附録によつて常に整頓する事がある。

第四に從來、日本文で書かれた外國語文法書には、文例の日本語、文法用語の日本語に固くるしいもの、日本語らしくない日本語を使つてあるのが多かつた。歐洲語を正確妥當な日本語に譯することが出來ないで、さうして歐洲語の正して意味を日本人殊に初學の日本人に知らせるこゝが出來るか。不可能な話である。本書にはかかる弊はないと信ずる。

第五に本書の説明が詳しく、文例も多く、練習文も豊富であるのみならず、附録が多量にあつて、やゝ長い讀解力應用に雜多文例や、年代、曆、貨幣、姓名、主な省

略字の説明や、前に記した轉尾及び活用表や不規則動詞の活用表や羅句語の辭典をつけてある。辭典は本書所用以外の單語を多數採録してあるので、羅句辭典の單行本のない現今としては便利なものと思はれる。(岩波書店發行、四六版五二四頁定價四・三〇圓)(紹介者高橋)

寄贈圖書 (昭和四年七月八月)

カント著作集第十二

イマヌエルカント

可感界並に可想界の形式と原理とに就いて

武田信一譯

岩波書店發行
定價二・四〇圓

現代哲學要論

木下一雄著

培風館發行
定價二・二〇圓

人物研究叢刊の中

東湖・象山 幕末四傑學風管見下
松陰・小楠

森 滄浪著

金鷄學院發行
定價〇・二〇圓

寄贈雜誌新聞 (昭和四年七月八月)

哲學雜誌	昭和四年八月號	第五一〇號
丁酉倫理會講演集	同八月號	第三三二號
社會學徒	同八月號	第三卷第八號
倫理研究	同八月號	第三號
眞宗研究	同八月號	第二五號
全 人	同八月號	
哲學と文藝	同八月號	第一卷第一號
學校教育	同八月號	第一九四號
奈良縣教育	同七月、八月號	第一九五、一九六號
信濃教育	同八月號	第五一四號
生理學研究	同八月號	第六卷第八號
願 慧	同七月	第八年ノ七

帝國大學新聞

昭和四年八月八日